

豪州日本商社

インターンシップ報告書

学部 経済 学年 2年

氏名 鴨川怜奈

期間：平成30年2月26日～3月9日

[2月9日 - 3月15日]

● インターンシップの研修内容

[2/12-2/23] 語学研修

Kaplan International English (語学学校)

[2/26-3/9] Internship

以下の各項目に関するリサーチとその分析結果のプレゼンテーション

- ・オーストラリア全土における経済・歴史・貿易・産業
- ・商社についての概要
- ・Lithiumの基礎知識のresearch
- ・オーストラリアにおけるLithiumのプロジェクト調査・需給、精製過程、用途
- ・Block Chain session
- ・オーストラリアでできるサービス業
- ・Amazon参入によるオーストラリアの市場・物流の変革
- ・オーストラリアの洗濯産業の実態
- ・オーストラリアの自動車産業について

● インターンシップで必要な英語力・スキル

[Regarding English skill]

私はインターンシップが始まる2週間前から渡豪し、語学学校に通いました。語学学校に通う前は、海外渡航経験は2回で、ともに県大からの派遣で行っているし合計2週間という短期間で、本当に話す勇気がないし、私は英語が下手だし、、、という思いでNativeと話すのが”怖い”という思いがありました。実際語学学校に通い始めてみると、クラス分けではMiddleのクラスで、先生にはRenaはGrammarがすごく理解できているとほめられ、またなんといっても、世界各国の第一言語が英語ではない人たちと同じクラスになって、私自身英語が「話せないから話さない」のではなく、「話さないから話せない」のだと気が付きました。インターンシップでは、日本の商社だっ

たこともあり、多くの会話は日本語でしたが、現地の人とは英語なので、英語でのコミュニケーションを求められる場合も多々ありました。なんといっても資料が英語だったので、Reading skill を鍛えておいてよかったと思いました。

[Confidence]

海外で一番大事なことは Confidence だと私は思います。私は日本では先生に、またオーストラリアでは Native の友達に “Have confidence” とずっと言われてました。日本人によくあるのが shy だということ。今回の渡豪でたくさんの国籍の人と触れ合い感じたことが、「みんな自分に自信を持っている」ということでした。英語に関しても言えますが、間違っても、自信をもって伝えようとし、相手に伝わればそれはもう立派なコミュニケーションです。インターンシップでも積極性をもって、なんでも try and error していくことを心掛けていました。

● インターンシップで得たこと

インターンシップ中に行っていたことに関連するのですが、オーストラリアのことを経済、歴史、産業など様々な角度から眺めることができ、理解することができました。当初は、オーストラリアは安定していて、とてもいい国だという漠然としたイメージをもっていたのですが、実際ふたを開けてみるとそんなこともなく、一つの物事を見るときにいろいろな視点から見ることの大切さを学びました。

自身の内面に関することとしては、たくさん弱みも強みも見つけたように思います。実際、毎日毎日、自分はこんなにも無力なものなのかと、自責する日々でした。与えられた課題をこなすことで精いっぱい、少し掘り下げられてしまうものなら、答えられない、そんな自分にいらいました。その反面、一つでも多くのことを学ぼうと、同じ職場の方の話は話し終わった後にメモをとったり話しているときは覚えて後で書き留めたり、やれるだけのこと、得られるものは得ておこうと貪欲になれる自分があることは今回初めて気が付いた自分の新しい一面です。



海外でその会社の一部として働かせていただけたこと、国籍や年齢。性別問わずたくさんの方からのお話を伺い、価値観に触れ、視野を広げていただけたこと、ここでは語り切れない、文字には起こせないそのすべてを含めて、私自身、このインターンシップで得たものです。

- **印象に残ったこと**

インターン最終日の朝言われた英語での1時間ほどの最終プレゼンが一番衝撃的でした。今まで英語プレゼンを何度もしましたが、すべて英語スクリプトを用意したうえで、かつもう少し短いものだったので、自分で英語を紡いで1時間半ほどプレゼンをするのは初めてでした。2週間やってきた内容をプレゼンするものだったので、スライドは1から作るよりは作りやすく、順番を組み立て、いかにスムーズに次のトピックに流れさせるかを瞬時に考え、流れに落とし込む作業を効率的に行うかがかなり大切になるなと思いました。スクリプトがないまますることはとても不安で、たくさんの反省点も生みましたが、この経験は本当にやってよかったと思います。自分の使いがちな英語の癖も見えてくるし、こんなときはどう表現したらいいのかなど、間違えたり、疑問に思ったときの方が記憶に残りやすいからです。正直社会人の方の前でするのは初めてだったし、度胸もついたと思います。プレゼンの途中でも質問をされても正確に答えられないことも多く、自分のリサーチ不足、詰め甘さ、視点をもっと広く持たないといけないと、気づかされました。そしてその基礎には必要最低限伝えたいことを伝えられる英語力が必要だなと。

毎日夕方にフィードバックをしていただいていたのですが、その時のお話一つ一つが印象深いものです。1対1で、将来のことについて話していただける、そんな経験ができたことを贅沢に思うと同時に、絶対今後の私の道しるべになっていきます。

- **インターンシップが今後どう活かされていくか**



このインターンシップで、自分自身の将来について考え直す機会となりました。実は、幼い時から海外に憧れを抱いていて、海外で働きたい、海外に住みたいという思いが漠然とあった私がこの大学を選んだのはIGコースがあったからです。大学以前は海外にでたこともない、そして英語は話せるようになりたいけどnativeに触れたこともなく、日本人特有の“怖い”という思いがあり、の長期留学にもずっと踏み出せずにいました。しかし、実際、国際系の授業や、GLEPのプログラムが私を大きく後押ししてくれ、海外が楽しくて仕方がなくなりました。

そんな心情の変化後初めて1か月という少し長めの期間でかつ働くという経験が海外でできたことで、「海外で働きたい」という意識から「やっぱり私は海外で働く」に変わりました。その最も大きな要因として、自分の等身大に出会えた、ということが

あります。自分の気持ちを素直に表現し、そして思い切り笑う、自分が一体どんな存在で、何を考えているのか、自分というものを自分で受け入れることがつらいけれどもこんなにも楽しいものかと思いました。そういった意味で、日本では私は周りからの影響を受けすぎていたのだと思います。もとより、あまり周りは気にしないタイプではありましたが、それでも周りを気にしすぎ、自分を出すことをあの時はためらっていたなど、2か月前の自分を振り返ると思います。日本にいと絶対に気がつかなかったと思うし、この商社で毎日フィードバックをもらっていなかったら、将来についてまだふわふわと漠然としていたと思いますし、自分を見つめ、己をまっすぐ理解しようとすることもなかったと思います。

就職活動もいよいよ迫ってきましたが、ここで学んだ、ここで教わった、ひとつひとつを思い出し、自分に向き合っていこうと思います。そしていつか本当に海外で働けるように、常に上昇志向で頑張っていきたいです。

素敵な周りの人たちに囲まれ、毎日が充実した日々を過ごせたこと、この場をお借りして今一度大学の先生方、商社の方々、私のオーストラリア生活に関わってくださったすべての皆様にお礼申し上げます。

● 後輩たちへのメッセージ

「海外に出たことがないから不安」、「英語力がない、だから私には無理なんだろうな」、行きたいという願望はあるのに、そう思ってしまった方が一人でもいるなら、そんな考えは捨てちゃいましょう。正直、物事はなるようにしかなりません。私もパースでの経験は良いものばかりではありませんでした。酸いも甘いも経験しました。どちらも経験したからこそ、今の自分がいると思っています。



そんな考えができるのは私が強いだけなのではと、思われるかもしれませんが、出国前はとてつもなく不安でした。語学学校に行く前も、インターンが始まる前も不安でした。どこにいても不安は付きまといます。でもその不安を自分でコントロールでき、乗り越えられたとき、そこには想像もしていなかったような素敵な眺めが待っています。皆さんにはぜひその景色を見ていただきたいです。

確実に成長できます、私が保証します。

今後、エントリーされる皆様のインターンシップが実り多きものになりますようお祈り申し上げます。